

Lib. Letter



埼玉県のマスコットコハトン



2008 winter [1～2月] 季刊

平成20年1月8日 通巻 第11号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

<http://www.lib.pref.saitamajp/> Tel 048-523-6291

紙の宝石－蔵書票（エクスリブリス）の世界－

書物が今より非常に貴重で高価だった時代に、その管理のため生まれたであろう蔵書票。愛書家たちは、自分だけの蔵書のしるしとして、さまざまな絵で飾られた美しい蔵書票を作り出し、人々の目を楽しませるようになりました。

今回は、「紙の宝石」とも称される蔵書票の世界をご案内します。



◇蔵書票とは？

本の見返し（本の表紙を開いた内側の部分）に貼って、その本の持ち主を明らかにするために作られた美術小紙片のことです。原語は、ラテン語の「エクスリブリス(Exlibris)」で、「だれその蔵書の中から」という意味があります。所蔵者の名前と一緒に美しい絵や図案、標語などを入れた紙片を日本では、「蔵書票」「書票」ともいい、英語圏では「ブックプレート (bookplate)」と呼ばれていますが、「エクスリブリス」という言葉が、広く国際的に使われています。

◇蔵書票の誕生

蔵書票はいつ頃、誕生したのでしょうか？現存する最古の蔵書票といわれているのは、ドイツの木版画のものです。制作年は、はっきりしませんが1450年から1470年頃で、ヨハネス・クナベンスベルクの俗称「ハリネズミの蔵書票」と呼ばれるものです。この蔵書票は、13×19cmの紙に木版で印刷されたもので、口に花をくわえたハリネズミの絵が描かれています。ハリネズミの上のリボンには、「私の本を返さなければハリネズミがあなたにキスする」と書かれています。なんともウィットに富んでいますね。

もう一つは、1470年頃に制作されたといわれている「楯を支えている天使」の図柄のもので、ブランドブルク家を象徴する牛の紋章を持つ天使の上に、「カルトウジオ会のブックスハイム修道院へ寄贈された本である」という意味のことがラテン語で書かれています。

1445年にゲーテンベルクによって活版印刷術が発明されてまもなくドイツで誕生した蔵書票は、その後、全ヨーロッパに広がりみせ、新大陸のアメリカへと伝えられました。



① 「ハリネズミの蔵書票」



② ジョージ・ワシントンの蔵書票

◇日本の蔵書印と西洋の蔵書票

日本は古くから印章が用いられていました。また、書物は和紙を使った和とじの柔らかい本が多かったため、本の所有者を示すために蔵書印が利用されていました。日本での蔵書印の歴史は古く、最初の使用については諸説あるようですが、奈良時代に作られた光明皇后の「積善藤家」の印が、現存する我が国最古の蔵書印だといわれています。これは光明皇后の御筆と伝えられている『杜家立成雑書要略（とかりっせいざっしょようりやく）』という書物に押印されています。



③【光明皇后の蔵書印】



【埼玉県立図書館の蔵書印】

*古い本には、この蔵書印があります。

一方、西洋では紙それ自体が硬く、厚手の表紙をつけた本が作られていたので、蔵書印よりも蔵書票を貼って所有者を示す方法がとられました。

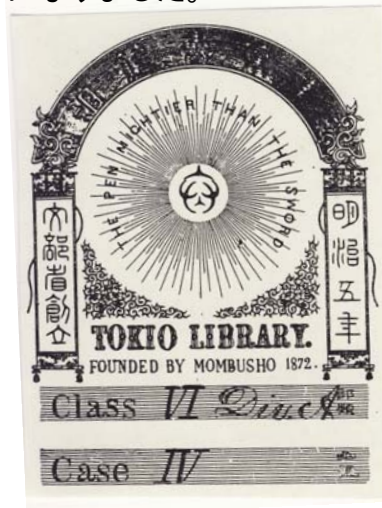
さて、日本にそれまで蔵書票がなかったかということ、そういうわけでもなく、印刷が普及しはじめた室町時代（奇しくも西洋と同じ1470年頃）、京都の醍醐寺光台院の所蔵本に蔵書票が使用されていたことが知られています。ただし、これには文様や絵はなく文字だけを印刷した実用的なものでした。

◇日本における蔵書票

現在のような蔵書票が日本の大衆に向けて初めて紹介されたのは、明治33年（1900）のことです。ヨーロッパから木版画を習いに来日したエミール・オルリックは、自ら制作した4枚の蔵書票を与謝野鉄幹主宰の文芸雑誌『明星』で紹介しました。異国の香り高い小版画は、当時の作家や文化人、版画家たちを刺激しました。その後、創作版画の発展とともに多色木版で蔵書票が作られるようになりました。外国ではエッチングと呼ばれる銅版画が多く、黒が主体で、色彩もごくわずかなものが多い中、浮世絵以来の伝統的な手法による日本の多色刷りの蔵書票は欧米の人々の注目を集めるようになりました。



④エミール・オルリック作



⑤東京書籍館の蔵書票

1872年（明治5年）に創立された東京書籍館で実際に本に添付されたもの。中央の放射線状の図の上には、「ペンは剣よりも強し」という文字が見られます。彫刻銅版。

【図版】 ①③：『蔵書票の魅力』樋田直人／著 丸善 より
②④⑤：『蔵書票の話』斎藤昌三 展望社 より

◇蔵書票の楽しみ

時代を経て、現在も世界のあちこちで蔵書票が作られています。版種も木版画から銅版画、石版画、孔版画、型染とさまざまで、美しく装飾された蔵書票は本に貼るだけではなく、収集の対象にもなっています。蔵書票の持ち主「票主（ひょうぬし）」は、お互いの蔵書票を交換し合い楽しむことができます。「国際蔵書票連盟(FISAE)」は、蔵書票愛好者の国際的な組織で、海を越えて同好の士の交流を図るとともに世界大会では世界中の蔵書票が展示されます。1992年には、この大会が札幌で開かれました。国内には昭和18年に発足した「日本書票協会」があり、東京での全国大会や地方でのフェスタなどが開催されています。

小さな紙片の中に所有者の本に対する愛情がアーティストたちの多彩な表現によって示される蔵書票。見るもよし、集めるもよし、自分で作ってもよし、楽しみ方はあなた次第です。



◇より詳しく知りたい方へ ~県立熊谷図書館にある蔵書票について書かれた資料~

『斎藤昌三著作集 第1巻 蔵書票とその歴史』後藤憲二／編 八潮書店 1980

(公開:020.8/サ)

『蔵書票の話』斎藤昌三／著 展望社 1930 (書庫:024/Sa25)

『西洋の蔵書票』内田市五郎／著 日本古書通信社 1992 (書庫:024/U14)

『沓掛コレクションー蔵書票ー』八潮書店 1982 (書庫:024/Y61)

『図説「書票の世界」ーデューラーから武井武雄までー』つくし館 1985 (書庫:024/Ta69)

『西洋の蔵書票ーバイロスとアールヌーヴォー』内田市五郎／編著 岩崎美術社 1984

(書庫:024.5/ウ)

『現代「書票」情報事典』内田市五郎・中井昇／編著 つくし館 1989 (公開:024.5/ケ)

『書票で楽しむ』田中 薫／著 さきたま出版会 1993 (公開:024.5/シ)

『書票を楽しむ』土屋文男／著 北海道新聞社 1992 (公開:024.5/シ)

『蔵書票の魅力ー本を愛する人のためにー』樋田直人／著 丸善 1992 (公開:024.5/ゾ)

『蔵書票の美』樋田直人／著 小学館 1986 (公開:024.5/ゾ)

『日本の書票』海野弘／〔ほか〕共著 日本書票協会／編 文化出版局 1982(公開:024.5/ニ)

『書物愛 蔵書票の世界』日本書票協会／編著 平凡社 2002 (公開:024.9/シヨ)

『エクス・リブリス 和の蔵書票コレクション』小槌義雄／監修・コレクション ピエ・ブックス
2005 (公開:024.9/エク)

『蔵書票の芸術』樋田直人／著 淡交社 1997 (公開:024.9/ソウ)

『現代日本の書票「現代日本の書票展」開催記念図録』日本書票協会／編 文化出版局
1978 (書庫:R024.5/ケ) *

「特集 紙片に描く、所有者のしるし【蔵書票】で愛読書を飾る」

雑誌『サライ 2001年3月15日号』 *

「作って貼る、蔵書票の愉しみ」 雑誌『東京人 2003年3月号』 *

「黄金期の西洋蔵書票」 クリス・パーフィット／著 雑誌『学燈 93巻10号』 1996.10 *

「西洋の作家と蔵書票」 内田市五郎／著 雑誌『学燈 94巻3号』 1997.3 *

■ 紹介した資料の()内は請求記号です。 * が付いている資料は館内利用となります。

参考図書の紹介 =参考図書ってなんだろう？=

特定の知識や情報について調べるために使う本のことです。1冊の本を最初から最後まで読み通すのではなく、その一部分を読むだけで情報が得られるように編集された資料で、レファレンスブックともいいます。例えば、百科事典や専門事典、図鑑、便覧、目録、索引などがあげられます。

◎家紋を調べてみよう！

『日本家紋総鑑』 千鹿野茂／著 角川書店 1993

(公開：R288.6/ニ) 館内利用

家紋とは『広辞苑』には「家々によって一定した紋所」とあり、徳川家の葵紋、加賀百万石の前田家の梅鉢、武田家の武田菱などが有名ですね。さてさて、自分の家紋は何だったかしら？確かマルの中に柏の葉が3枚あったような・・・？

こんなとき使えるのが『日本家紋総鑑』です。索引から「柏」を探し、該当するページを見ていくと・・・ありました【丸に三つ柏】解説によると柏紋の中では最も多く使われている図柄だそうです。この本には、各地の墓石などから採取した拓本の家紋や作画や紋帳から採取した家紋、約2万点が収録されています。基本となる親紋を343種類に分類し、それらを五十音順に並べてあり、その成り立ち、形状、種類や歴史上の文献に現れた使用氏および現在の主な使用姓氏や分布が記されています。

家紋を調べるにはこの他にもこんな本があります。

『家紋大図鑑』 丹羽基二／著 秋田書店 1986 (公開：R288.6/ニ) 館内利用

『都道府県別姓氏家紋大事典』 東日本編・西日本編 千鹿野茂／著
柏書房 2004 (公開：R288.1/ト) 館内利用

『新集家紋大全』 梧桐書院 1986 (公開：R288.6/シ) 館内利用

*これらの資料は2階にあります。カウンター職員におたずねください。



図書館の言葉 「OPAC」ってなんだろう？

「OPAC (オパック)」とは、[Online Public Access Catalogue] の略で、オンラインを用いて検索することができる図書館蔵書目録のことです。当館には、キーボードから入力するものと指で触れて操作をするタッチパネル式のもの、2種類の館内OPACがあります。また、インターネットを通じて自宅等のパソコンからも蔵書が調べられるようになりました。これらは「Web-OPAC (ウェブオパック)」と呼ばれています。

* 館内OPACから、予約したりご自身の貸出状況や予約状況を確認することができます。パスワードの登録が必要となりますので、カウンターでお申し込みください。



お知らせ

●2階展示コーナーでは【遍路 四国八十八札所を巡る】を開催しています。

期 間:1月5日(土)~3月27日(木)

* 所蔵資料展示目録を作成し配布していますので、ぜひご覧ください。